

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
英語 I English I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	必修	栄養士養成課程1年必修（クラス別）	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
谷村 航	授業時に指示する	授業時に指示する		授業中に指示します
授業の概要				
これまで学習した英語力の活性化を図り、実践に役立つ英語力を養うために、日常英会話を教材として、中学・高校レベルの文法事項を復習しながら、聴き取りの力と話す力を伸ばすための授業を行います。				
授業の目標				
①英語の発音記号を読み、正しい発音ができるようにする ②英語の聴き取りのコツ（音法14ルール）を覚え会話に生かすことができるようにする ③テキスト添付CDを開き、課題の会話を繰り返し聞いて暗記し、実践の場で使うことができるようにする				
授業の方法				
基本事項の学習以降は1課を2週間で学習します。1週目はインプット（入力）クラスで、モデル会話の文法や発音の注意点などを確認します。2週目までに指定された会話をCDを聴いて覚え、2週目の授業はアウトプット（出力）クラスとして、覚えてきた会話をペアワークやグループワークで実際に使う練習をします。2回の発表試験を行い、自分の発表を見て振り返りをする中で、学習達成度の確認をし、個人でそれぞれの実力に合った学習目標を設定し、授業の中でその到達を目指して能動的に授業に取り組んでいきます。				
学習の成果（学習成果）				
①日常会話表現を覚えることができる。②英語らしい発音のコツを学ぶことで、覚えた会話表現を誰にでも通じる正しい発音で話すことができる。③表現を覚え、正しい発音を身につけることで、複雑な英語の音も聴き取れるようになる。④授業内で覚えた会話文を実際に使う練習をすることで、国際的に広く認識されているジェスチャーなども身につけることができる。（例：握手をするタイミングや手の握り方、握った手の振り方の地域的な違いなど）⑤誰とでもフレンドリーに接するコツを身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明（授業の方針、進め方、評価方法等の説明）			
第2回目	基礎事項の学習：発音記号母音			
第3回目	基礎事項の学習：発音記号子音			
第4回目	基礎事項の学習：英語のリズム			
第5回目	基礎事項の学習：音法（英語の聴き取りのコツ）			
第6回目	Unit 1: Icebreaking インプットクラス（文法・意味・音法の確認）			

第7回目	Unit 1: Icebreaking アウトプットクラス（ペアワークによる会話練習）		
第8回目	中間テスト		
第9回目	ふりかえり		
第10回目	Unit 2: Describing People(Character) インプットクラス		
第11回目	Unit 2: Describing People(Character) アウトプットクラス		
第12回目	Unit 3: Describing People(Appearance) インプットクラス		
第13回目	Unit 3: Describing People(Appearance) アウトプットクラス		
第14回目	Unit1とUnit2のアウトプットクラス・試験		
第15回目	全体の総括		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		30%	毎回の授業で英語を発話する機会がある。各授業における課題は毎回明確にするので、それを達成するために授業内外で努力しているのかを評価する。
レポート			
調査報告書		10%	発表試験はペアで行うため、試験日までの1週間で個別・共同練習の成果をセルフチェックする練習報告書を配布する。試験当日に回収し、授業外での取り組みを評価する。
小テスト		20%	授業では筆記・または発表形式の小テストを毎回実施する。合格ラインを明確に指示するので、それに達する努力を学期を通じて行なったかどうかを点数と共に評価する。
試験		40%	発表試験20%、筆記試験20%で評価する。
発表内容（態度含む）			
その他			
教科書と参考図書			
Communication Builder(南雲堂) 2100円（本体）			
履修上の留意点・ルール			
暗記は最初は大変ですが、英語が聴き取れる喜び、すらすら話せる楽しさは最高です。実力に応じて達成目標を設定して、励まし助け合いながら、頑張りましょう。また、個性を活かした上で国際社会でも誇りをもって行動できるマナーもしっかり身につくよう、授業における各自の自覚を希望します。			